

令和元年度 学校評価 総括評価表

徳島県立みなと高等学園

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
		評価指標	評価指標の達成度	総合評価 (評定) B		
人権教育の推進	<p>【学校目標】 生徒一人一人の人権を尊重した教育を徹底するとともに、自他を大切にす態度の育成及びいじめなどの人権侵害を許さない人権感覚を育む。</p> <p>①生徒がお互いの人権や個性を認め合えるような環境を整えるとともに、いじめの早期発見・早期対応に努める。 〔生徒指導・人権課〕</p> <p>②生徒人権委員会活動や「中高生による人権交流事業」への参加を通して、人権意識の高い生徒の育成に務める。 〔生徒指導・人権課〕</p> <p>③学校と家庭が一体となった人権教育を推進する。 〔生徒指導・人権課〕</p> <p>④生徒が安心して学校生活を送れるように、校内の相談支援体制の充実を図る。 〔支援・研究課〕</p>	<p>①いじめ防止プログラムをすべて実行する。教職員による「さん付け呼名」の共通理解といじめに関するアンケート調査と個別面談を実施する。(各年間3回以上) 全校集会を実施する。(年間4回以上)</p> <p>②南部ブロック生徒部会や「中・高生による人権交流事業」への参加人数(20人以上)</p> <p>③人権教育研修会と人権コンサートの実施(各1回以上)</p> <p>④生徒への有効な支援につなげるために、要望があれば心理検査等を実施したり、校内ケース会議を行ったりする。</p>	<p>①教職員による「さん付け呼称」の共通理解といじめに関するアンケート調査と個別面談を年間各3回実施した。全校集会を4回実施した。</p> <p>②南部ブロック生徒部会や「中・高生による人権交流事業」に延べ28人の生徒が参加した。</p> <p>③保護者教職員対象人権教育研修会を2回人権コンサートは実施することができなかった。</p> <p>④新入生28名全員に対して心の理論課題を実施し、その結果をHR担任に報告できた。要望のあった3名の生徒について、個別の心理検査を実施して、結果や支援の方策を保護者や担任に報告できた。校内ケース会議を3回、校外の関係機関を交えたケース会議を11回開催した。スクールカウンセラー事業で3名、スクールプロフェッサー事業で1名、本人や担任からの相談に応じてもらった。</p>	<p>生徒がお互いの人権や個性を認め合えるよう、「さん付け呼名」とアンケートを実施し、いじめの早期発見・早期対応に努め、アンケート結果をまとめ生徒指導の職員研修に生かした。</p> <p>また、人権意識を高めるために、人権委員会の生徒が中心に「中・高生による人権交流事業」に参加した。参加人数は延べ28人と昨年よりも増加し、参加した生徒は積極的に活動を行い、リーダーシップを発揮することができた。</p> <p>学校と家庭が一体となった人権教育を推進するために、研修会を実施し、連携を深めた。ニーズに応じて心理検査等を実施したり、共通理解や指導方針を計画するためのケース会や専門家を招聘しての個別相談を実施することができた。</p>	<p>いじめに関するアンケートの実施や日頃の生徒の状況を把握し、いじめを積極的に認知した。今年度は4件のいじめが発見されたが、いずれも早期に発見でき、早急にいじめ対策組織支援会議を開き組織的な対応がなされたため、現在は解消されている。いじめは絶対に許さない」という強い認識を学校全体で徹底し、組織的に取り組む必要がある。日頃の生徒の様子を丁寧に見守る体制を今後も継続していく。</p> <p>南部ブロック生徒部会への参加は、他校生との交流やリーダーシップの醸成など生徒にとって有益であると考えているので、積極的な参加を呼びかける。</p> <p>保護者・教職員人権教育研修会を継続する。保護者のニーズも考慮して講師の選定をし、保護者の参加を呼びかけたい。</p> <p>一時的であったが、スクールカウンセラー派遣を依頼し専門的なカウンセリングが実施できた。</p> <p>ケースによっては校外の関係機関や専門家と連携しあい、情報の共有化を図れるような支援体制を更に強化していきたい。</p>	
		活動計画	活動計画の実施状況			
		<p>①教職員による「さん付け呼名」を研修や会議で周知徹底させて共通理解を図る。いじめに関するアンケート調査と個別面談を実施し、いじめの早期発見と教職員への相談を促す。いじめの認知については、学校いじめ対策組織で組織的に判断する。</p> <p>②人権委員会活動の一環として南部ブロック生徒部会や「中・高生による人権交流事業」に参加し、他校生と交流を深めるとともに、交流活動の様子を文化祭の表現の場で発表する。</p> <p>③保護者・教職員を対象とした研修会や生徒・保護者・教職員を対象とした人権コンサートを実施する。</p> <p>④職員会議や学年会等で校内の相談支援体制について情報提供するとともに、校内支援コーディネーターの統括のもと、各学年に相談担当者を配置し、学年会等を通じて校内の様々なニーズの把握に努める。</p>	<p>①教職員による「さん付け呼名」を研修や会議で周知徹底させて共通理解を図った。いじめに関するアンケート調査を実施し、いじめの早期発見を促した。特に生徒の話を「聴く」ことを大切にし、自主練習会などを行った。</p> <p>②人権委員会活動の一環として南部ブロック生徒部会や「中・高生による人権交流事業」に参加し、他校生と交流を深めることができた。</p> <p>③保護者・教職員を対象とした研修会を行い、発達障がいの人に必要「合理的な配慮」について多面的に学ぶことができた。</p> <p>④各学年会において、生徒の状況を共有しつつ、必要に応じて校内のケース会議を開いたり、学部の関係機関につなげたりすることができた。</p>			
キャリア教育の充実	<p>【学校目標】 生徒個々の資質や適性に応じ、職業能力や意欲等を高める指導を系統的・組織的に実施し、社会的・職業的自立に結びつける指導を推進する。</p> <p>①生徒一人一人の適性や能力に応じた就業体験を実施するとともに、生徒・保護者、関係機関</p>	<p>①就業体験2回以上。進路説明会1回(各学年の保護者対象)。拡大進路相談(2年生の生徒と保護者対象)を個別に実施。進路便りを年間12回発行する。</p> <p>②平成30年度卒業生の進路先(県内)を全て訪問する。</p> <p>③保護者に前・後期就業体験時の生徒の様子についてアンケートを取る。内容は、第2、3回PTA通信に掲載する。</p>	<p>①1年生は校内実習と現場実習の2回、2・3年生は、前期と後期に校内実習と現場実習を実施した。12月には全学年の保護者を対象に進路説明会を、2月には2年生を対象に拡大進路相談を実施した。進路便りを年間12回発行した。</p> <p>②平成30年度卒業生全との進路先(県外含む)を訪問し、アフターケアを行った。</p>	<p>各学年の指導担当者が中心となり、実態(生徒・保護者・担任のニーズ)に応じた就業体験・進路学習・進路相談・進路説明会の計画と実施ができた。また、新規の職場開拓を積極</p>	<p>卒業後のアフターケアは就労定着のためにも重要だと感じている。</p> <p>アフターケアを全員に対して行うことはかなり大変ではないかと感じる。就職してうまくいかなかったケースは学校がフォローして</p>	<p>生徒の実態の多様化に伴い、卒業後すぐの就職だけでなく、就労継続支援等の福祉サービスを経て将来的に就職を目指すことも必要となってきた。関係機関との連携についても、卒業後の支援体制の構築に向けて、より早い段階から規模も拡</p>

<p>等と共通理解を図り、最適な進路選択ができる。</p> <p>[進路指導課]</p> <p>②卒業生へのアフターケアを実施することにより、進路先での定着を図る。</p> <p>[進路指導課]</p> <p>③就業についての知識や理解を保護者も深め、保護者が子どもの就職について、話し合ったり相談する場を提供する。</p> <p>[総務・環境課]</p> <p>④各種検定において資格取得に向けた取組をとおして技能の習得を図るとともに、働く意欲や態度を育てる。</p> <p>[支援・研究課]</p> <p>⑤自分発見チェックリストを実施することで、生徒自身の自己理解を深め、社会的・職業的自立のための基礎をつくる。</p> <p>[支援・研究課]</p>	<p>④とくしま特別支援学校技能検定において、4分野（ビルメン、接客、介護、ICT）に参加する。事後アンケートにおいて95%以上の生徒から「検定に参加してよかった」という回答が得られる。</p> <p>⑤全ての生徒が、自分発見チェックリストを実施し、チェックリストをもとに自己の目標を設定することができる。</p>	<p>③保護者のアンケートを取り、PTA通信に掲載した。また進路関係の茶話会や講演なども実施し、内容をPTA通信に掲載した。</p> <p>④事後のアンケートの結果から96%の生徒から「検定に参加してよかった」という回答が得られた。</p> <p>⑤1・2年生全員が自分発見チェックリストを実施して、自己の目標を設定することができた。</p>	<p>①生徒の適性や本人・保護者のニーズに合わせた就業体験を実施することができた。また、今年度から全学年（昨年度までは1年生）の保護者を対象に進路説明会を開催し、2年生は関係機関を交えた拡大進路相談を個別に実施した。進路便りを年間12回発行し、就業体験の取組や進路に関する情報提供を行った。</p> <p>②関係機関と連携し、平成30年度卒業生全ての進路先（県外含む）を訪問するとともに、不具合等、新たな課題が発生した場合には、必要に応じて、ケース会議を開催するなど定着支援を行った。平成30年度卒業生の離職者は1名であった。</p> <p>③卒業生保護者の話を聞く会を1回実施した。また、グループホームや自立支援についての講演も行い、卒業生保護者と在校生保護者が意見交換をすることができた。</p> <p>④検定参加に向けて計画通りの授業を実施することができた。技能習得とともに上位級取得生徒数が増加し、授業の成果を発揮することができた。</p> <p>⑤計画通り1年生は年間2回、2年生は年間1回チェックリストを実施できた。結果を活用して生徒が自分の成長を確かめたり、他者評価を受け止めて課題を見つけたりするための授業を実施することができた。</p>	<p>的に行うことにより、生徒の適性に応じた実習先・進路先を確保することができた。</p> <p>卒業生のアフターケアについても、関係機関との連携により、不具合に対して、迅速に対応することができた。</p> <p>平成30年度卒業生においては、1名の離職があったが、関係機関とのチーム支援により、早い段階での再就職へ繋げることができた。</p> <p>技能検定については認定級に関わらず、生徒自身の意欲や自信に繋がっていると思われる。</p> <p>自分発見チェックリストは、定期的に各ホームルームで実施されるように年間スケジュールに組み込まれており、実施率が高く、自己理解のためのツールとして定着してきている。</p>	<p>関係機関と連携して次の就労先に繋げてくれているということは大変ありがたい。</p> <p>ハナミズキの利用者の半数は成人なので、就労業務が多くなっている。障がい者雇用のご声かけから声がかかることがあり、一般企業とのつながりが少しずつできてきた。利用者の作っているので本校のキャリア教育を参考にさせてほしい。</p> <p>相談の中で「なんで働かないのか？」という人が多い。みなと高等学園は就労に向けてキャリア教育がしっかりしている。家庭でのお手伝いなどの積み重ねが必要であると感じる。在学中のキャリア教育が大切であると思う。</p>	<p>大し、取り組んでいきたい。</p> <p>各学年の進路担当者が中心となり、進路学習や就業体験を実施し、生徒の実態に応じた進路指導の取組を行う。また、進路便りを発行することで就労に対して情報提供を行うとともに、保護者の意識の向上に役立てたい。</p> <p>今後も卒業生のアフターケアを継続し、卒業生や保護者からの相談を受けたり、進路先や関係機関と連携したりしながら早期に対応することで、実態やニーズに応じた働き方を支援していく。</p> <p>技能検定に向けた取組には、技能検定での上位級取得が目的ではなく、身につけた技能を実際の学校生活や家庭生活や就労に活用していけるような指導を模索していきたい。</p> <p>自分発見チェックリストは、チェックリストを活用して自己理解に結びつけた実践事例を蓄積して、効果的な活用方法を検証していきたい。</p>
---	---	---	---	--	---	--

<p>個別の指導計画の効果的な活用</p>	<p>【学校目標】 生徒及び保護者の教育的ニーズに応じた「個別の指導計画」を作成し実践することで、きめ細かい指導及び支援を組織的に推進する。</p> <p>①生徒一人一人の「個別の指導計画」の目標を達成するために、教員の授業力の向上を図る。</p> <p>[支援・研究課]</p> <p>②生徒一人一人の「個別の指導計画」の目標を達成するために、授業時間数を最大限確保する。</p> <p>[教務課]</p>	<p>評価指標</p> <p>①月1回程度の全体研修会またはグループ研修会を実施する。</p> <p>②行事の精選に努めることで、「個別の指導計画」の『目標達成』が生徒全体の90%以上を目指す。 (『目標達成』以外の評価が9名以下で90%とする)</p> <p>活動計画</p> <p>①対話型研修をとおして、授業における共通の支援の柱を作って授業実践するとともに、「合理的配慮」について研修する。</p> <p>②各部署と行事の調整を行い、授業時間の確保に努める。また、各教科担当者に毎月の授業実施数を入力してもらうよう月末に連絡し、時間数の確保を行う。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①学校行事や現場実習等で日程が確保できない月を除き、全体研修会を年間8回実施できた。</p> <p>②本評価の締切が、生徒の評価を出すよりも早かったため、3年生分のみしか対象とできていない。卒業を目前に控え、一部課題を残してという生徒もあったが、90%以上の生徒が『目標達成』に値する評価を得られていた。</p> <p>活動計画の実施状況</p> <p>①対話型の全体研修会を通して出た教員の意見をまとめ上げ、授業における支援の3つの柱を作り、共通理解のもと授業実践を行った。全体的支援では、学習目標の達成が難しい生徒に対して、個別に事例検討を行い、個に応じた「合理的配慮」について検討した。</p> <p>②教科等の内容に値する行事は、授業の視点で指導することから授業カウントし、時</p>	<p>総合評価 (評定) B</p> <p>対話型研修を通じた職員研修を土台に、3つの支援の柱にそって授業実践することで、教員の授業力の向上が図れたといえる。また全体的支援だけでは学習目標の達成が難しい生徒について「合理的配慮」を考えるプロセスや視点を学んだことは、「個別の指導計画」の手立ての有効性を考える上で役立った。</p> <p>3年生の評価で、一部課題を残してという箇所においても、卒業後も意識を持って取り組んでほしいという願</p>	<p>子どもからアルバイトについての質問があったが、なぜだめなのかの説明が難しい。学校のルールだからと説明している。社会に出てルールはあると思うので、家庭ではそのように説明している。アルバイトをすることによって学業に影響が出ることもあると思う。まずは学業をしっかりやって自分の課題を達成し、自立を目指してほしいと思う。そのためにも個別の指導計画をしっかり立てて、分かりやすい授業を進めてほしい。</p>	<p>全体的な支援の充実は図れたが、それでもなお学びにくい生徒に対して個別の配慮や支援を検討し、授業実践の中で検証していくことが今後の課題である。</p> <p>生徒面談は生徒とじっくり向かい合う良い機会であると考えているので、行事等の精選を検討して時間を確保していきたい。</p>
-----------------------	---	--	---	---	---	---

			間数の確保に繋がった内容も多かった。また、毎月の入力に協力を得るのは大変であったが、振替時間割を組むには欠かせないので今後も継続予定である。	いを含めた評価であった。 4つの学科があるため、行事を精選して減らすことはなかなか難しいが、授業(教科等)の視点から指導を行い授業カウントとすることで時間数の確保に繋げることができた。		
センター的機能の充実	<p>【学校目標】 専門性の向上に努め、高等学校及び幼稚園、小・中学校に在籍する発達障がい児に対し積極的な助言及び支援を推進するとともに、保護者・地域・関係機関と密接に連携し信頼される学校づくりに努める。</p> <p>①県内の高等学校等の教員を対象に、発達障がい教育に関する相談支援や研修支援を行う。 〔支援・研究課〕</p> <p>②信頼される学校づくりのため、積極的な情報発信を推進する。 〔情報課〕</p> <p>③保護者との連携協力を推進する。卒業生保護者が参加するOB・OG会を発足し、在校生保護者との交流を含めた活動を実施する。 〔総務・環境課〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①外部依頼の教育相談件数20件、研修会等への支援回数5件以上。発達障がい教育研究会(第1回)の参加者が60人。 ②行事等のホームページ更新数130回以上。 ③事業所見学への参加者20人以上、PTA通信の発行年間3回以上、保護者と生徒と一緒に活動する会を年間3回以上実施。今年度発足したOB・OG会の活動を1回実施する。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①外部向け教育相談は34件(令和2年3月見込み)であった。研修会等への支援回数は3件(同)で、発達障がいの対応やケースについての研修を実施することができた。発達障がい教育研修会は参加人数57名であった。 ②行事等のホームページ更新を100回以上行うことが出来た。 ③事業所見学への参加者が30名、PTA通信発行3回、保護者と生徒と一緒に活動する会を3回実施できた。OB・OGの会を2回実施した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) B</p> <p>教育相談件数は目標値を大きく上回る相談依頼があった。要因としては、継続の依頼が多く、1つのケースに継続して関わり支援することができたといえる。研修会への支援は目標数に届かなかったが、会場の収容人数に限りがあるため、積極的な案内活動ができなかったというところに問題もある。 ホームページ更新件数は100回に到達したが、目標更新回数を少し下回ってしまった。ホームページ更新の技術研修の機会を増やしたり更新しやすいICT環境作りを更に進めて行きたい。行事や交流の様子を通して、本校の取組を保護者や地域に広報することができた。</p>	<p>校長先生を中心としてホームページがよく更新されているので、学校での様子がよく分かった。交流の様子もアップされているので乳幼児や利用者の様子もよく分かる。今後もみなと高等学園のことを広く啓発してほしい。</p>	<p>現状の相談体制に即して、目標値の見直しを図り、現状において無理なく活動していく必要がある。相談件数ではなく、依頼先のニーズに添えたかどうかということを重要視していきたい。 保護者や地域への広報と共に、校内の教職員にもホームページの閲覧を勧め、他学科や他学年の取組や生徒の様子について情報共有を図る。 教育研究所等の関係機関を通じて、教育相談のパンフレットの配布を依頼するなど、年度当初(4月)に広報活動を実施し、センター的機能の充実を図る。</p>
		<p>活動計画</p> <p>①相談支援については、主に県内の高等学校や関係機関に対して、ホームページ等を活用して広報活動を行う。県内の高等学校等の教員を対象にした特別支援教育研修会と発達障がい教育研究会を同時開催として、夏休みに計画・実施する。 ②各課や教科担任等が、積極的にホームページを通じて情報発信できるように、ICT機器を設定するとともに、機器の使い方等を研修する機会を設定する。 ③PTA活動の一環として、事業所見学会や茶話会、PTA通信の発行、「親to子withみなと」を実施する。卒業生保護者にも、茶話会への参加を呼びかける。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①地域連携協議会やフレッシュ研修で初任者の先生等、パンフレットの配布や口頭での広報活動を行った。発達障がい研修会と県内高等学校等教員対象の特別支援教育研修会を同時開催として夏季休業中に実施できた。 ②ホームページ更新等の情報発信においてiPadの活用しやすいICT機器環境の設定を増設することが出来た。機器の使い方等を研修する機会を設定できた。 ③茶話会の1つを障がい年金申請についての講演会にして、卒業生保護者も参加があり、勉強と交流を深めることができた。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>部活動参加率も昨年度より向上し、異年齢集団の活動や、地域との交流活動を通して、協調性や思いやり、社会貢献の精神を育むことができた。 地域の方や近隣施設の方との交流により、円滑なコミュニケーションの方法について学ぶことができた。 異なる想定避難訓練を関係機関と連携しながら繰り返し実施す</p>	<p>ひのみね祭りや植栽・収穫活動で交流の機会を多く持って下さり感謝している。利用者も楽しみにしているので継続してほしい。</p> <p>地域施設との交流は生徒の協調性や思いやりの心を育むことに有効であると思うので継続してほしい。 入所児の中には保護者と面会できない子どももいるので、生徒だけでなく乳幼児の情操教育にとっても良い影響がある。今後も引き続きお願いしたい。</p>	<p>部活動の実施日について、行事予定表で示すことで、他の計画を立てやすく、生徒の主体的な活動を引き出すことができたが、職員会議や行事等により、計画通りに実施できなかったことが課題としてあげられる。実施日の確保について、早い段階から実施計画を提示したい。 部活動やボランティア活動、交流活動を通して、様々な場面で多くの人と関わり生徒にとって有意義な経験ができた。活動</p>
特別活動の推進	<p>【学校目標】 学校行事・生徒会活動・部活動など望ましい集団活動を通して、心豊かな人間の育成を図るとともに、交流活動を推進し地域や人と人とのつながりを大切にする態度を養う。</p> <p>①部活動に参加することで、集団生活の決まりや礼儀を重んじ、仲間と協力する態度を養う。 〔特別活動・保健課〕</p> <p>②地域の施設を訪問し、作業や交流活動を通して奉仕の精神を養う。 〔特別活動・保健課、教科担任〕</p>	<p>評価指標</p> <p>①部活動参加率75%以上。 ②施設訪問・交流回数年間50回以上。 ③地震・津波、火災避難訓練回数年間6回以上。 ④ゾーン関連の行事(乳児院祭りや合同避難訓練・合同避難訓練反省会)への生徒・教職員の参加。</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>①81%の生徒が部活動に登録して活動した。 ②年間63回(園芸で49回、ビルメンテナンスで8回、福祉サービスで6回)実施した。 ③地震・津波想定避難訓練を4回、ゾーン合同火災避難訓練を2回、全国一斉緊急地震速報行動訓練を2回、計8回避難訓練を実施した。 ④乳児院祭り、ひのみね祭りに18人の生徒及び教職員が参加した。ゾーン合同火災避難訓練(年2回)には全生徒及び教職員が参加した。</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>部活動参加率も昨年度より向上し、異年齢集団の活動や、地域との交流活動を通して、協調性や思いやり、社会貢献の精神を育むことができた。 地域の方や近隣施設の方との交流により、円滑なコミュニケーションの方法について学ぶことができた。 異なる想定避難訓練を関係機関と連携しながら繰り返し実施す</p>	<p>ひのみね祭りや植栽・収穫活動で交流の機会を多く持って下さり感謝している。利用者も楽しみにしているので継続してほしい。</p> <p>地域施設との交流は生徒の協調性や思いやりの心を育むことに有効であると思うので継続してほしい。 入所児の中には保護者と面会できない子どももいるので、生徒だけでなく乳幼児の情操教育にとっても良い影響がある。今後も引き続きお願いしたい。</p>	<p>部活動の実施日について、行事予定表で示すことで、他の計画を立てやすく、生徒の主体的な活動を引き出すことができたが、職員会議や行事等により、計画通りに実施できなかったことが課題としてあげられる。実施日の確保について、早い段階から実施計画を提示したい。 部活動やボランティア活動、交流活動を通して、様々な場面で多くの人と関わり生徒にとって有意義な経験ができた。活動</p>
		<p>活動計画</p> <p>①部活動紹介により部活動参加を呼びかけ</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>①週2回の取組により、県大会や全国大会</p>	<p>総合評価</p> <p>(評定) A</p> <p>部活動参加率も昨年度より向上し、異年齢集団の活動や、地域との交流活動を通して、協調性や思いやり、社会貢献の精神を育むことができた。 地域の方や近隣施設の方との交流により、円滑なコミュニケーションの方法について学ぶことができた。 異なる想定避難訓練を関係機関と連携しながら繰り返し実施す</p>	<p>ひのみね祭りや植栽・収穫活動で交流の機会を多く持って下さり感謝している。利用者も楽しみにしているので継続してほしい。</p> <p>地域施設との交流は生徒の協調性や思いやりの心を育むことに有効であると思うので継続してほしい。 入所児の中には保護者と面会できない子どももいるので、生徒だけでなく乳幼児の情操教育にとっても良い影響がある。今後も引き続きお願いしたい。</p>	<p>部活動の実施日について、行事予定表で示すことで、他の計画を立てやすく、生徒の主体的な活動を引き出すことができたが、職員会議や行事等により、計画通りに実施できなかったことが課題としてあげられる。実施日の確保について、早い段階から実施計画を提示したい。 部活動やボランティア活動、交流活動を通して、様々な場面で多くの人と関わり生徒にとって有意義な経験ができた。活動</p>

	<p>③安全で安心できる学校づくりに務める。〔特別活動・保健課〕</p> <p>④ハナミズキゾーン内の関係機関との連携を深め、情報を共有する。〔管理職、特別活動・保健課〕</p>	<p>る。文化祭、または可能な限り校外の大会や高文祭に参加する。</p> <p>②環境園芸、ビルメンテナンス、福祉サービスの授業や、部活動で、地域の施設を訪問して、奉仕活動や利用者との交流を図る。</p> <p>③毎回異なった想定地震・津波避難訓練や近隣施設（ハナミズキ・乳児院）との合同火災避難訓練を実施する。</p> <p>④生徒・教職員へ、イベントボランティア参加の呼びかけを行ったり、避難訓練後の合同反省会を主催して、防災担当以外の教員が参加できる機会を設定する。</p>	<p>にも参加・出品し、入賞することができた。</p> <p>②地域の施設を訪問しての奉仕活動や、校内においてともに活動することにより、奉仕の精神を養うとともに、社会性や協調性を高めることができた。</p> <p>③地震・津波避難訓練の避難場所や被害状況等を変えて実施したが、生徒は落ち着いて参加することができた。また、避難生活についても概要を確認する時間も持つことができ、生徒・職員のイメージを広げることができた。ハナミズキゾーンの関係機関とともに、合同火災訓練を実施することができた。</p> <p>④イベントボランティアへの参加を呼びかけたり、避難訓練後の反省会に複数名の教員が参加したりして、反省点や課題を共有することができた。</p>	<p>ることにより、避難行動について理解・把握でき、生徒・職員とも防災に関する意識や実践力を向上させることができた。</p> <p>ゾーン関連の行事にボランティアとして参加することで、地域の方や乳幼児とふれあい交流を深めることで、達成感や奉仕の精神を育むことができた。</p>	<p>避難訓練を合同で行う機会を設定していただきありがたい。合同訓練や反省会を通して、いざという時に連携して対応できるような組織作りをしていただきたい。</p>	<p>によっては休日の活動もあり、生徒の負担や教職員の働き方に配慮し、参加の仕方や活動内容を検討しながら進めていきたい。</p> <p>発災の危険性が高まる中、授業時間以外の生徒の所在確認や安全管理をスムーズに行うための対策を講じていきたい。また、ゾーン合同で様々な状況を想定した訓練やゾーン内での備蓄品等の共通理解や連携方法を検討していく必要がある。</p>
業務改善	<p>【学校目標】</p> <p>業務改善やワークライフバランスの推進に努め、効率がよく働きやすい職場づくりを推進する。</p> <p>①教材のデータベース化を図り、活用を促進することで、教材研究の効率化を図る。〔支援・研究課〕</p> <p>②会議の時間を確保し、意見を出しやすい環境を整えとともに、勤務時間内の終了を目指す。〔管理職〕</p> <p>③各書類の重複する押印を1カ所に簡略化し、事務処理の負担を軽減する。〔管理職〕</p>	<p style="text-align: center;">評価指標</p> <p>①教材データの利用アンケートにおいて、「教材のデータベースは教材研究に役立っている」と回答する教員の割合が、60%以上になる。</p> <p>②勤務時間内に職員会議等を終了する。（実施回数の70%以上）</p> <p>③80%以上の教員から事務処理の負担が軽減したとの回答を得る。</p> <p style="text-align: center;">活動計画</p> <p>①学期ごとに教材の収集と活用を呼びかける。また、利用しやすいようにフォルダを整理する。</p> <p>②職員会議日に加え、学校運営戦略会議日も45分短縮授業とし、会議の時間を確保する。資料を電子化し、事前に提示することで時間短縮を図る。</p> <p>③復命データファイルを作成し、特記事項がある場合のみ入力する。全教職員が閲覧できるようにし、情報共有を図る。</p>	<p style="text-align: center;">評価指標の達成度</p> <p>①アンケートの回答者のうち「教材のデータベースは教材研究に役立っている」と回答した教員の割合は71%であった。</p> <p>②開始時間を早めることで、9回実施のうち、全てにおいて勤務時間内に終了することができた。（100%）</p> <p>③86%の教員から事務処理が軽減したとの回答が得られた。</p> <p style="text-align: center;">活動計画の実施状況</p> <p>①保存されたデータの整理が追いつかず、収集に関しては呼びかけができなかった。</p> <p>②45分授業とすることで、会議の開始を25分早めることができた。資料は全てを電子化するのではなく、必要に応じて紙媒体を併用した。資料の電子化については、94%の教員から大変良い・おおむね良いの評価を得た。</p> <p>③復命データベースに記入したことがある教員は51%であったが、閲覧したことがある教員は80%を占め、情報の共有が図れた。</p>	<p style="text-align: center;">総合評価</p> <p>（評定） B</p> <p>アンケートの結果より、教材のデータベースは、作成のために役立っていると思われる。</p> <p>職員会議を勤務時間内に終えることができ、教員から「時間を気にせず集中できた」「会議後に仕事をする時間ができた」との意見が寄せられた。98%の教員から大変良い・おおむね良いとの回答を得ることができた。</p> <p>復命書の簡略化は多くの教員から事務処理が軽減したとの評価を得ることができ、業務改善につながったといえる。</p>	<p>世の中全体が働き方改革に向かっており、教育界も例外ではない。</p> <p>昨年度から今年度にかけて、会議のあり方や事務処理の方法について、具体的に業務改善をし、効果も上がっているようである。</p> <p>今後もさらにあらゆる分野について教員全員で考え、工夫し、働き方改革をより一層進めていってほしい。</p>	<p>教材データベースがより活用しやすいものになるよう、データベースの保管場所・閲覧方法についての周知や整理が必要である。</p> <p>昨年度職員会議の日は短縮授業にし業務改善を図ったが、今年度はそれに加え、学校運営戦略会議の日も短縮授業にし、更に効果を上げた。</p> <p>来年度以降、行事の精選やスリム化を各校務分掌で案を出し合い、働き方改革を進めていきたい。</p>